
渋沢丘陵～しあわせな登山者になりましょう～

西 正子

11月6日に行った「渋沢丘陵」ハイキング。

参加者は、島崎さん、横堀さん、それに私たちの計4名。小春日和の日差しを浴びながら、のんびりと歩いてきました。

渋沢駅で下車。住宅街を通り抜けるように進むと「今泉名水公園」に到着です。湧き水で有名な秦野市らしく、真ん中には大きな池があり、水鳥が2、3羽、羽を休めていました。

その先、だんだんとまわりが畑になり、なだらかな農道を20分ほど登ると、もう丘陵の上でした。右手には秦野盆地を挟んで丹沢山塊、左には畑の先に湘南の海がきらきらきれいでした。

駅から1時間ほどで「震生湖」です。関東大震災の地崩れで現れた湖は、紅葉の森に囲まれて神秘的です。バスやヘラブナを求め、たくさんの釣り人が訪れていました。

ドングリや落ち葉を踏みしめ、ゆるやかに登り下りを続けます。

畑道がふたたび住宅地の道路に変わると小さな公民館があり、ここで昼食にしました。「登山者の方もどうぞ」と外トイレやベンチが設置されているところなど「さすが秦野」です。

この日の最高点、八国見山(やくにみやま・319m)は、ヤブがちな山でした。山頂に立つと、それでも富士山方向は刈り入れがなされ、まだ雪の無い高嶺を何枚も写真に収めました。

秋の斜光を浴びながらの軽登山は、見所をていねいに追っても時間に余裕があり、あわてることはありません。渋沢駅脇の食堂に入った時もまだ14時過ぎでした。

「渋沢丘陵」。新しいハイキングコースと思いきや、帰宅後に古い地図を確認すると、昔からちゃんとコース記載がありました。ずっと見落とししていたことに、やっと気づきました。

若い時は、丹沢といえば、沢登りや塔ノ岳などしか目に入らなかったわたしを「渋沢丘陵」は気長に待っていてくれたのでしょうか。

そうして機が熟し、「やっと見つけてくれたんですね。渋沢丘陵にようこそ、シニアさん」と声をかけてくれた?ので、今回の山行は実現したわけです。

「人は見たいものしか見ない」とはジュリアス・シーザーの名言です。ですから「見たいもの」が変われば「見えるもの」も変わってくるのでしょう。案の定、シニア気分にとっぴり浸かり、いろいろな地図やネットを調べると、近郊でも、まだ行ったことのない場所がたくさんあることに、びっくりです。

実はここ最近の計画、「日連アルプス」「能岳・八重山」「都留アルプス」「狭山丘陵」「要害山」も、そうやって発掘したものです。

若い時は、登山を勉強する時期です。体力や技術を身につけ、安全に山を楽しむ「良い登山者」が目標でした。ですが、これからは一歩すすんで「しあわせな登山者」を目指していきたいと思います。

同じ山に行っても「何の変哲もない、眺めの悪い山だった」とブツブツ言うのと、「地層が変わってるし、樹木にも特長のある山だった」と感じるのでは大違いです。

山に行き、幸せを感じるには、五感を研ぎ澄まします。万象に興味を持ち、わからないことを同行者に聞いたり、家で勉強したり…。アンテナを張り巡らし、広い好奇心を持てば、マンネリとは無縁でしょう。

NHK「プラタモリ」のタモリさん。人気の秘密は、豊富な知識と探求心ですが、そんなスタイルを学んでいきたいと思います。